

は裙をいふらめど、袖のひだのよしともなりぬ、凡此衣手とつゞけたる條々、皆こゝろ得がたき事多きは古への衣の様をよくまり得ぬゆるなるべし、右を衣うつ事とおもふ人もあれど、しか衣などあるべきを、衣手と有は、袖の事なれば、袖を掃てふ事は侍らぬ也、衣手をうちわの里とつゞけたるも、又別なり。

位置

〔地勢提要〕乾 各國經緯度 附里程

常陸成田村極高三十六度一十六分半、經度東四度五十分半、前同一百九里二十五町一十一間、

〔日本經緯度實測〕北極出地

常陸 矢田部村 鹿島郡 三五度四七分〇〇秒 成田村 三六度一六分三〇秒 略中

東西里差

山城 京 〇度〇〇分〇〇秒 略中 常陸 矢田部村 鹿島郡 東五度〇一分一三秒

疆域

〔古今類聚常陸國誌〕上 常陸國、在東海道之域轄郡十一、鄉百五十三、村二千五百二十四、註東至東海一十二里、東南至鹿島海口一百二十二里、南至下總國界宮和田川九十六里、西南至下總國結城郡界鬼奴川八十一里餘、西至下野國那須郡界六十三里餘、西北至陸奧國白河郡界八溝山一百八里、北至陸奧國菊多郡界棚倉地七十五里、東北至陸奧國菊多郡界祈通關一百五里、至京師九百三十里。

〔日本地誌提要〕二十三 疆域 西ハ下野、下總、南ハ下總、北ハ磐城、東ハ海ニ至ル、東西凡壹拾壹里

壹拾八町、南北三拾里壹拾町、

〔續日本紀〕二十九 稱德 〔神護景雲二年八月庚申、下總國言、天平寶字二年、本道問民苦使正六位下藤原朝臣淨辨等、具注、應掘防毛野川之狀、申官聽許已訖、其後已經七年、得常陸國移曰、今被官符方欲掘川、尋其水道、當決神社、加以百姓宅所損不少、是以具狀、申官宜莫掘者、此頻年洪水、損決日益、若不早掘防、恐梁川崩埋、一郡口分二千餘田、長爲荒廢、於是仰兩國掘、自下總國結城郡小鹽鄉小島村、達于常